

## かがやく中山間地の集落営農法人を目指して

作成者 農事組合法人 かがやき

代表理事 田本正三

### 1 はじめに

集落は、山に挟まれた谷合にある 24 戸あまりの集落で、農地のほとんどが水田で標高 250m から 400m の間に 2,104.1a が点在しています。

大山から日野川に向けて広がる河岸段丘の地形のため農地間の移動距離が大きく、全農地の 1 回の水管理に係る走行距離は 18 kmにも及び町内の集落の中でも営農条件としてはあまり良くありません。

町内でも美味しいお米の取れる地域として知られており、水稻栽培意欲が高い反面、転作での換金作物の取り組みが遅れ、ソバ、白ねぎ、コンニャクに取り組む農家はあるものの、大半が自家消費野菜であるという状況です。

#### 地区における水稻栽培の状況（平成 29 年実績）

ランキング	品種	面積
1	コシヒカリ	1,140.1a
2	ヒトメボレ	166.5a
3	きぬむすめ	152.8a
4	もち	103.1a
水稻合計		1,562.5a

#### 地区における転作作物の状況（平成 29 年実績）

ランキング	品種	面積
1	ソバ	79.1a
2	その他野菜	54.9a
3	景観作物	48.0a
4	白ねぎ	40.9a
5	地力増進作物	34.1a
6	コンニャク	27.9a
7	トウモロコシ	18.2a
8	カボチャ	10.2a
9	ニンニク	10.0a
10	その他	41.8a
定着除外分	自己保全実績	86.6a
	林地実績	46.5a
	果樹実績	38.1a
	農業施設等実績	5.3a
転作合計		541.6a

## 2 農事組合法人かがやき設立

大きな担い手がなく、長年にわたり個人による営農が行われてきましたが、高齢化の進行や後継者不足等により、これからも水田農業を継続していくことが難しい世帯が増え、将来の農地維持についての検討を数年かけて協議し、平成 28 年 8 月に全戸加入（出身者含）による「農事組合法人かがやき」を設立しました。

また、同時に法人が先導役として中山間地域直接支払制度の対象農地すべてで有害鳥獣侵入防止柵設置に取組み営農条件の向上を図ったほか、法人の経営改善計画の認定（認定農業者）、人・農地プランにおける中心経営体としての位置づけにも取組み、水稻栽培を中心に、転作田においては土地利用型作物であるソバの栽培に取り組み、主たる販売先は農協（玄米については組合員向け販売を含）で安定的な経営に心がけるほか、地域農家の要望に応えるため農作業受託にも取り組んでいます。

### 農事組合法人かがやき概要（平成 30 年 4 月末現在）

- (1)法人設立 平成 28 年 8 月
- (2)組合員数 27 名（全戸加入、出身者含）
- (3)資本金 810,000 円（1 口 30,000 円：27 口）
- (4)経営面積

作物	28 年度	29 年度
水稻	387.9a（28 筆）	789.1a（56 筆）
そば	104.9a（10 筆）	72.4a（10 筆）
景観作物	11.7a（3 筆）	11.7a（3 筆）
自己保全		5.0a（1 筆）
その他野菜（自家用）		2.9a（1 筆）
合計	504.5a（41 筆）	881.1a（71 筆）

### (5)作業受託面積

作業内容	28 年度	29 年度
肥料散布	107.8a（8 筆）	107.8a（8 筆）
コンバイン	102.9a（7 筆）	
乾燥調整	110 袋	

### (6)施設・農業機械所有状況（平成 30 年 4 月末現在）

機械・施設名	能力・年式等	導入年度	備考
作業小屋 1 棟			
乾燥機			
計量選別機			
石抜機			
籾摺機			

事務所			
-----	--	--	--

※トラクター、田植機、コンバインは組合員より借用対応している。

(7)農事組合法人かがやき損益計算書集計

区分	28年度	29年度	備考
売上高			
米売上高			
そば売上高			
受託作業			
営業外収益			
前期繰越利益			
収入合計			
売上原価			
販売費一般管理費			
営業外費用			
特別損失			
法人税住民税			
支出合計			
差引（当期剰余金）			
利益準備金			
経営基盤強化準備金			
従事分量配当金			
次期繰越剰余金			

3 今後の方針

農事組合法人かがやきの設立はまさに試行錯誤で、5年間という非常に長い時間を費やしましたが、最後は地域の皆さんの総意により立ち上げることができました。

また、組織運営についても任意組織での集落営農経験がないため、他地域での取り組み内容を参考にしながら見よう見まねでのスタートでしたので、活動体制が安定するまでの当面の間は、慣行栽培による水稻とソバ栽培というふうに活動内容を絞り込んで失敗のリスクを極力排除した安全運転の経営に主眼を置いてきました。

この結果、2期続けての黒字決算達成や組織運営のノウハウが徐々につかめるようになったことにより、経営改善計画の達成に向けての以下の取組を強化していくこととしました。

## <方針の3つの柱>

- ① 経営規模の一層の拡大
- ② 農産物の高付加価値化
- ③ 経営の多角化

### ① 経営規模の一層の拡大

基本的には、引き続き農作業が困難になった方の受け皿になりうるよう体制整備を図る。

従来、トラクター、田植機、コンバインの農業機械については、法人での導入は見送り、できる限り組合員所有の機械を借用対応の方針でやってきたが、機械の老朽化が進んだことと、個人経営用の小型機械しかないために、作業効率が悪くなっているため、乗用田植機（6条）と自脱型コンバイン（4条）を各1台導入し、経営の効率化を図ります。

### ② 農産物の高付加価値化

農業機械の大型化に伴う作業効率の向上による余剰労働力を活用して、農産物の高付加価値化を目標に特別栽培米に取り組めます。

### ③ 経営の多角化

水稻、ソバの土地利用型作物のみの経営から、高収益作物の導入を図り経営の多角化を目指します。

この取り組みは単に収益性の向上だけでなく、60歳代～70歳代の男性主体の法人運営から、女性や大型機械の操作が困難になった高齢者の参加が得られるような環境を整えていくという意味合いを持ちます。

老若男女すべての地域に住む人それぞれが、自分の能力、時間に応じて何らかの形で集落営農に関わってもらえることが大切だと考えているからです。

また、そのことは同時に集落全体への収益の分配に繋がることであり、永続的な地域活力の根源の一つの柱になると考えます。

この実現に向けては、当地区におられる元トマト生産農家、白ねぎ、コンニャク芋の生産者を指導者として、栽培技術の継承や生産規模の拡大に取り組むことで多角化経営を定着させたいと考えます。

#### 4 プラン目標

具体的な取組内容 (項目)		目 標 及 び 実 績				
		現 状 平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度
経営面積の拡大	目標値		909.9a	1,000.0a	1,200.0a	1,300.0a
	実績値	881.1a	a	a	a	a
農産物の高付加価値化 (特別栽培米)	目標値		0.0a	50.0a	50.0a	50.0a
	実績値	0.0a	a	a	a	a
農業経営の複合化 (野菜)	目標値		5a	25a	35a	35a
	実績値	0.0a	a	a	a	a

#### 5 取組と役割分担

項目	30 年度	31 年度	32 年度	分担等
コンバインの導入	◎			国・県・町・経営者
田植機の導入	◎			国・県・町・経営者
フレコンスケールの導入	◎			国・県・町・経営者
経営面積の拡大	○	○	○	県、機構、町
農産物の高付加価値化		○	○	県、農協、経営者
農業経営の複合化	○	○	○	県、農協、経営者

※◎は国・県・町の支援が必要なもの

#### 6 支援事業の内容 (平成30年度)

項目	事業費 (円・税込み)	負担区分 (円)			
		国	県	町	かがやき
コンバイン (4 条刈)	6,339,600	2,113,000	704,533	352,267	3,169,800
田植機 (6 条植)	2,397,600	799,000	266,533	133,267	1,198,800
フレコンスケール導入	1,587,600	793,000	0	0	794,600
合計	10,324,800	3,705,000	971,066	485,534	5,163,200

※平成30年度経営体育成支援事業 (国庫事業) に交付申請中

#### 7 事業の効果

農事組合法人かがやきの設立により、地域農業の受け皿ができたことと、従来は個々の家の問題であった後継者対策について、本当の意味で地域全体での課題として取り組めるようになった。

集落の打ち合わせ会は増えて負担感がないわけではないが、半面、地域でのコミュニケーションの機会は増えたことが意思の疎通や助け合いの実践に繋がっている。

一方で、高齢化の進む 58 名の限られた人間の中で、活動の主力は、60 歳～79 歳であり、現在、男女合わせて 26 名がいる。しかしながら、59 歳以下は 17 名しかおらず、集落営農に取り組んでいる当地においても、10 年、20 年後の将来に事業継続が困難になる恐れがある。

このため、作業効率の向上を追求して将来的には 10 名以下でも [ ] 地区の農地を守っていけるよう知恵を絞っていく必要性を感じるとともに、地域に住む老若男女すべてが参画できる「かがやく中山間地の集落営農法人」を目指していきたいと思います。

法人組織を立ち上げ後、みなさんから「ようやあなつたなあ」とか「いいことになったなあ」といった言葉をよく聞きます。

私たちは [ ] 地区だけでなく、江府町全体が今よりもっと元気になればいいと願っていますので、当地域の頑張りが周辺集落への刺激となり、江府町全体の農業活性化に繋がることが、めぐりめぐって [ ] 地区のさらなる活性化に繋がると思っています。

モデル地区といえるほどの取組ができています訳ではありませんが

「 [ ] でもしなただけん、わしらもやらいや！」

そんな声が、江府町中から聞こえてくるよう、これからもがんばっていききたいと思います。

< [ ] 地区の性別年齢別構成（平成 30 年 3 月現在） >

区分	人口	男	女	
0 歳～19 歳	5	5	0	地域の宝 (遠い未来の後継者?)
20 歳～59 歳	12	6	6	サラリーマン世代 (休日しか頼りにならない後継者)
60 歳～69 歳	15	7	8	退職就農者 (農業見習い中→直近の後継者)
70 歳～79 歳	11	6	5	地域農業の主力 (地域リーダー、指導役)
80 歳以上	15	5	10	地域農業を支えてきた世代 (まだまだ戦力、生涯現役)
合計	58	29	29	

8 添付資料

- ・ほ場図
- ・導入機械のカタログ、見積書
- ・機械等の規模決定根拠
- ・経営試算（プラン期間及び目標年）